

新たな木材利用事例発表会 『鉄道と木の温もり –鉄道旅行の復興-』

2013年2月14日



目次



1. 会社概要
2. 富士急行線とは
3. 富士登山電車
 - (1) 1号車「赤富士」
 - (2) 2号車「青富士」
 - (3) 富士登山電車が
できるまで
4. 鉄道事業のその他の利用事例
 - (1) 下吉田駅
 - (2) 富士山駅
 - (3) 6000系
5. 鉄道以外への利用事例
 - (1) KABA BUS
 - (2) 白鳥の湖

1. 会社概要

- 会社名 富士急行株式会社
- 本社 山梨県富士吉田市新西原5-2-1
東京都渋谷区初台1-55-7
- 設立 1926（大正15）年9月18日
- 代表者 代表取締役社長 堀内光一郎
- 資本金 91億2,634万円
- 営業収益 439億7,100万円（2012年3月期）
- 従業員数 連結3,240名（2012年3月）
- 株式上場 東京証券取引所 第1部

沿革	
1926年	富士山麓電気鉄道創立
1927年	乗合・貸切バス営業開始
1929年	大月～富士吉田23.6kmの鉄道営業開始
1935年	山中湖に「富士ゴルフ場」 （現富士ゴルフコース）開業
1960年	富士急行へ社名変更
1961年	「富士五湖国際スケートセンター」 （現富士急ハイランド）開業
1996年	富士急ハイランドに「FUJIYAMA」開業
2009年	観光列車「富士登山電車」運行開始
2011年	・水陸両用バス 「YAMANAKAKO NO KABA」運行開始 ・富士山駅開業

2. 「富士山に一番近い鉄道」富士急行線

- JR中央線・大月駅～河口湖駅間26.6km、標高差500m、最大40%の急勾配をゆく
- 展望席が人気の「フジサン特急」や観光列車「富士登山電車」、子供達に人気の「トーマスランド号」など多様でユニークな車両ラインナップ



富士山をバックに快走る1000系電車



通勤型車両の輸送力と居心地を両立させた6000系



ユニークな外観が目をひくフジサン特急



富士山を楽しむ工夫が随所に盛り込まれた富士登山電車

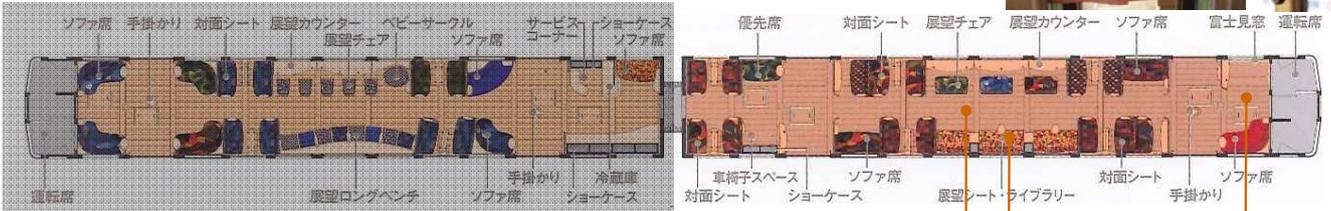


子供達に人気のトーマスランド号

3. 富士登山電車-(1)

(1) 1号車「赤富士」

- ▶平成21年8月9日～運行開始
- ▶濃い茶色の木や赤みがかった色調のシートを用いた落ち着いた空間



展望カウンター・展望シート



↑赤富士を印象づける赤みを帯びたシート柄。カウンター側のチェアはそれぞれ柄が異なり見ているだけでも楽しめる。

ライブラリー



↑展望シート背面に設けられたギャラリーには、富士山や鉄道関係の書籍や雑誌が並ぶ。

富士見窓・ソファ席

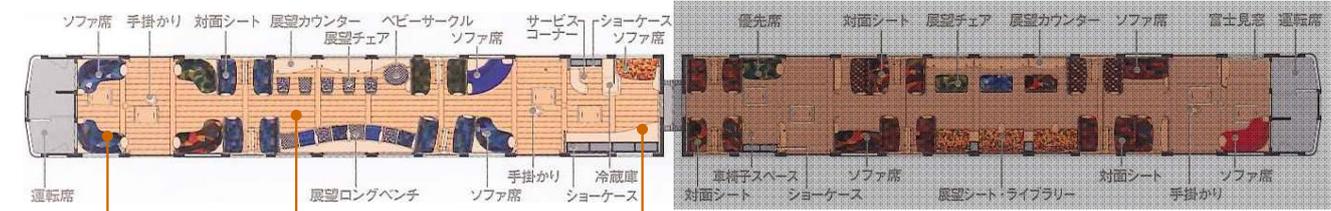


↑レザー張りのコーナーソファは斜めに向いており、車内を見渡せる開放感がある。対面に設けられた富士見窓は子供の身長と歩幅に合わせた2ステップとなる。

3. 富士登山電車-(2)

(2) 2号車「青富士」

- ▶平成21年8月9日～運行開始
- ▶明るい白木を中心とした客室に優雅な曲線美のインテリア



ソファ席



↑運転席側のコーナー四隅に設置されているソファ席。手前に見えるハンドル状のものは木製の手掛かり。

展望カウンター・ロングベンチ



↑車両中央部に広く取られている展望スペース。優雅なカーブのロングベンチやバナネ式の回転機構が内蔵されたチェアが旅人同士のコミュニケーションを生む。

ショーケース



↑「富士登山電車」オリジナルグッズなどが展示された飾り棚。棚の前にはウェーブが付けられたベンチが設けられ、電車内とは思えない空間づくりを強調する。

3. 富士登山電車-(3)

(3) 富士登山電車ができるまで

- ▶工業デザイナー水戸岡鋭治氏との出会い
 - ・水戸岡先生のこだわり
- ▶木材というタブーへの挑戦
 - ・鉄道車両と木材利用の過去
 - ・社内外の取りまとめに関する苦労
 - ・メンテナンスについて
- ▶大胆な内装デザインへのお客様の反応
 - ・ハードとソフトを一体化させたサービスの提供



■水戸岡鋭治氏
デザイナー/イラストレーター
(株)ドーンデザイン研究所 代表
建築・船舶・鉄道車両までほぼ全ての
デザイン分野で活躍。世界最高の鉄道
デザインにおくられる「ブルネル賞」
も過去4回受賞している。

お客様の旅をサポートする 客室乗務員



■サービスコーナー



■記念撮影サービス

富士登山電車 改造記



■開業当時の車体色を再現



■マッターホルン号を改造



■木材中心のインテリアへ



■チーク材をイメージした「赤富士」



■天然木の風合いを活かした「青富士」

4. 鉄道事業のその他の利用事例-(1)

(1) 下吉田駅

下吉田駅舎

▶平成21年7月18日リニューアル



↑「レトロモダン」をコンセプトに元のシンプルさを活かした設計。



↑吹き抜けの開放的な駅舎内には富士の稜線をイメージしたベンチを設置。



↑ホーム上のガラス張りの待合室から富士山を望むことができる。

下吉田倶楽部

▶平成23年4月29日オープン



↑駅に併設したカフェはコミュニティスペースとして地域住民も使用。

下吉田駅ブルートレインテラス

▶平成23年4月29日オープン



↑ウッドテラスが設けられ、かつて寝台特急「富士」として活躍したものと同型の客車を展示。

→内部の見学も可能。現役当時と同様に室内灯や発電用エンジンが稼働する。



→前身である「富士山麓電気鉄道」開業時の昭和4年に造られた貨車などを展示。



←木造の内部が当時の様子を伝える。

4. 鉄道事業のその他の利用事例-(2)・(3)

(2) 富士山駅

富士山駅（外観・ホーム）

▶平成23年7月1日オープン



↑柱を木材で囲み、天井にも木材を貼るなどして温かみのあるホームに。



↑富士山の玄関であることを示す大鳥居を駅入口に設置。

(3) 6000系

6000系

▶平成24年2月29日運行開始



↓内装やつり革に木を使用し、通勤型車両ながら居心地の良さを追求。

富士山駅（屋上）



←直結するターミナルビルに設けた「富士山展望テラス」。

5. 鉄道以外での利用事例-(1)・(2)

(1) KABA BUS

オープンバス「KABA BUS」

▶平成23年4月29日運行開始



↑緑の香りや風の音など富士山麓の自然体感に溶け込むフローリング

水陸両用バス「山中湖のKABA」

▶平成23年4月29日運行開始



↑背面に装備したスクルーで山中湖を航行。明るい色味の革張りシートとフローリング材の組み合わせがリゾート感を盛り上げる。

(2) 白鳥の湖

白鳥の湖

▶平成24年3月24日
運行開始



↑木目を生かした生地仕上げのナラ材を使用。曲線基調の温かみのあるデザインとした。



←富士山をバックに一周約30分のバスによるクルージングが楽しめる。

ご清聴ありがとうございました。